

■ビジネスにおける異文化コミュニケーション研修

- ◆ねらい：体感ワークや講義、議論を通じ、国籍や背景の異なる相手と仕事をしていくうえで必要な知識とマインドセットを学びます。
 いわゆる「海外」の方々とのかわりだけでなく、世代や業種、業界などの違いによるコミュニケーションのすれ違いを予防するためにも有効です。

◆カリキュラム案

時間	内容	手法
AM	1. オープニング (1) 研修の意図と目的の説明 (2) 自分の「カルチャーショック」体験 2. コミュニケーションのすれ違い (1)【演習】体感ワーク「3つの島」 (2) 振り返り:「違い」に触れたときの感情とリアクション (3) ケーススタディ:ビジネス分野での異文化衝突 (4) 文化の氷山モデル (5) ディスカッション (6) 自分の「文化的背景」を洗い出す	講義 グループワーク 講義 個人ワーク グループワーク
PM	3. 文化の指標(カルチャーマップ) (1) ビジネスですれ違いを起こしやすい文化の「傾向」を知る ① コミュニケーション(ハイコンテキスト-ローコンテキスト) ② 異論 ③ フィードバック ④ タイムマネジメント(直線的-柔軟) ⑤ 組織の形(ヒエラルキー型-フラット型) ⑥ 意思決定(トップダウン-ボトムアップ) (2) 自分の文化と行動様式を知る 5. 「文化の島」モデル (1) 「文化の島」モデル -人と人、として向き合うということ- 4. 衝突の回避・解決 (1) 自分が体験した衝突(コンフリクト) (2) 自分の衝突への対応の癖を知る (3) 衝突解決のパターンを知る(コンフリクトモード) ① 回避的 ② 受容的 ③ 競争的 ③ 協調的 ⑤ 妥協的 (3) 議論「あの時、他にはどのような対応の仕方があったか」 6. 適切な「NO」や「異論」の伝え方 (1) ケーススタディ:海外にて主張が弱く、うまくいかなかった例 (2) 4つのステップ (3)【演習】4つのステップで伝えてみる 7. まとめ (1) 全体の振り返り (2) 総括	講義 ディスカッション 講義 個人ワーク ディスカッション 講義 グループワーク 講義 ディスカッション 講義 ディスカッション